上信越版

林業専用道の現地検討会

創意工夫で使いやすい道を

群馬森林管理署

関東森林管理局群馬森林管理署は8月31日、高崎市岩氷地区で林業専用道現地検討会を開いた。林業成長産業化を踏まえ、原木の安定供給体制の構築を目指す技術力の向上が目的。県森林事務所、建設会社、林業事業体等から約80人が参加し、林業専用道への理解を深めた。

現地の実態に合わせた使いやすい道造りを学んだ

林業専用道は、幹線となる林道を補完し、森林作業道と組み合わせることにより、間伐をはじめとする森林施業専門に利用する車道。森林へのアクセス機能を高め、普通自動車（10トン積程度のトラック等）の輸送能力に応じた規格・構造を持たせることで、木材輸送の機能を強化・補完する。

同局管内の林業専用道は、2016年末現在で156キロ（うち群馬県内31キロ）が整備されている。

今回の岩氷林業専用道は、13～17年度に掛けて整備され、8月28日に完成した。付近の民有林と国有林の適切な森林経営と森林管理を目的に、既設路線の林道を接続する路線として開設された。

同局管内の林業専用道モデル路線に位置付けられている。施工延長2759メートル、施工費用は約1億円で1メートル当たり3万6449円。

使いやすい道造りの観点から、森林へのアクセス機能や作業道の取り付け、土場の確保を勘案して路線を決定している。

また、線形を地形に追従させることにより林地の改変量を最小限に抑え、耐久性の向上と維持管理コストの低減を図り、土工量と構造物の最小化に努め、開設コストの縮減を図っている。

参加者は、コンクリート路面に中央部に向かって筋を付けることにより、路面水の路肩への移動による洗堀を抑え、路肩の安定を図った施工方法など、現地の実態に合わせて創意工夫した事例を間近に見ると同時に、設計者や施工会社から説明を受けた。

現地検討会は同署、利根沼田署、吾妻署の3署が合同で技術力向上を目的に開いており、今回が1回目。2回目（下刈作業省力化現地検討会）を25日に利根沼田署で、3回目（一貫作業システム）を11月下旬に吾妻署で開く予定だ。

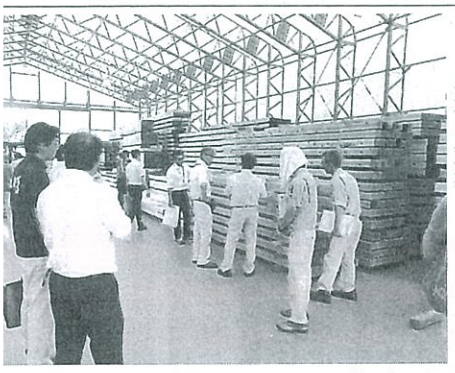
越後杉の需要拡大へ

坂詰製材所で乾燥実習

新潟県

越後杉の需要拡大を目的とした木材乾燥実習（主催＝新潟県森林整備加速化・林業再生推進協議会）がこのほど、坂詰製材所（新潟県阿賀野市、田村正信社長）で開かれた。県内の製材工場19社25人が参加し、杉平角KD等の生産工程を見学するとともに、越後杉を家造りに生かす取り組みを学んだ。

同県は越後杉ブランド誇る同社の取り組みを見学した。機15立方メートル入り3基、



越後杉の乾燥方法や品質管理を見学する参加者

工程を見学し、表面割れや内部割れが少ない製品の仕上がり具合を確認しながら、グレーディングマシンで1本1本印字して各サイズを在庫する取り組みを見学した。

桐生専務

中大規模木造を推進

實成康治氏が講演

平方木材

平方木材（群馬県前橋市、平方宏社長）は、「第5回中大規模木造建築セミナー」を開いた。設計事務所、工務店などから約80人が参加し、ウッド・ハブ（新潟県三条市）の實成康治代表（＝木構造テラス代表理事）が講演したほか、非住宅向け各種製品を紹介した。

同社は月産5000坪のプレカット加工をしており、非住宅がそのうち1割を占め、年々増加している。渋川市の延べ床面積400坪の高齢者施設をはじめ、群馬県片品村や千葉県木更津市で道の駅（木更津は木工事含む）等の実績があり、

民間需要の中規模木造について話す實成氏

10月には前橋市で小学校（木工事と床工事含む）の建設も予定している。非住宅に対応する各種工法や商材の紹介を積極的に行っており、今回で5回目。冒頭のあいさつで平方社長は、「皆様とパートナーシップを結び、施主に喜ばれる木造建築を広めていきたい」と述べた。

實成代表は、民間需要を狙った中規模木造について解説した。一般流通材とプレカット加工等の住宅生産インフラの活用、木造に適した構造計画・意匠と構造の連携などについて具体例を挙げながら説明した。木造、RC造、S造は構造種別ごとに得意分野があるとしたうえで、「小規模なS造が担っていたサイズが、合理的な木造とできる場合が多い」と述べた。今後、同社とウッド・ハブは、概算構造計画や見積もり等で連携し、非住宅木造を推進していく計画だ。

ラ松で村営住宅

北相木村

長野県北相木村は、村産のカラ松を使った村営住宅を建設している。山村留学で受け入れて

同村は面積の9割を山林が占め、そのほとんどが天然林や人工林のカラ松となっている。都市部から小学生を1年を通して受け入れる山村留学制度は30

増加しており、受け入れる村営住宅が足りなくなったため、新たに2建設している。

建設中の住宅は、在帯入